



東京家政大学の「学環」は、複雑化する現代社会を読み解き、自身の人生をデザインするスキルと知識を身につける新しい教育課程です。

従来の大学の枠組みを超え、企業や自治体等と連携するプロジェクト型学習を中心とした総合的な学びを通じ、正解のない課題に取り組む多角的な視点と実践的な技術、柔軟な思考力を育成することを目的としています。

卒業時には学部や学科と同様に「学士」の学位が得られます。



学環とは？

2026年 4月 社会的課題に向き合う 2つの新しい学びの“環”

2025年度は学環の準備期間として、教員主導で複数のプロジェクトを実施。その代表的な取り組みを紹介します。

文化情報学環 (設置予定)

社会における情報を効果的に活かして、新たな価値とともにストーリーとして発信する



推しの木ワークショップ

地域をフィールドに、発見を形にする「推しの木ワークショップ」

文化情報学環の学びは、教室の中だけに留まりません。地域社会全体をフィールドとした実践的な学びを展開します。その象徴的な取組の1つが「推しの木ワークショップ」です。これは野村不動産との連携企画で、学生が企画・運営の中心となり、地域の小学生と共に緑豊かなキャンパスや街を探索し、自分だけのお気に入りの木＝「推しの木」を見つけるプロジェクトです。参加者は五感を使い木々を観察し、その魅力を伝える「応援うちわ」を制作します。このプロセスを通じて、身近な自然の多様性に気づき、地域への愛着を育むだけでなく、発見した魅力を他者に伝える表現力を養います。また、本企画は地域とも協働し、成果物は北区公益施設「ジェイトエル」で展示されました。教室を飛び出し、多様な人々と連携しながら、地域の資源を活かして新たな価値を創造する。このワークショップは文化情報学環が目指す実践的な学びを体現しています。



文化情報学環 学環長 (就任予定) 白木 賢信 教授

分野を越えて文化と情報を探究

「文化が好きだけどAIやプログラミングも必要?」「興味が多すぎて1つに絞れない」。そんな思いに応えるのが文化情報学環です。SNSが文化を変え、新たな交流が生まれる現代、分野を横断する視点が不可欠です。多様な専門分野が連携する「学びの環」の中で、学生の興味を組み合わせ、現代社会に必要な新たな問いを編んでいきます。

社会デザイン学環 (設置予定)

現場からより良い社会をリ・デザインする力を身につける



3Dプリンター体験ワークショップ

3Dプリンターを、生活に活かす学びの体験

十条駅前ビルにある北区公益施設「ジェイトエル」と連携し、夏に3Dプリンター体験ワークショップを2回、おこないました。親子向けにはキーホルダー作りを、福祉関係者には自助具作りを、レクチャーも含め実施し、デジタル機器を生活の中で活用することを学びました。



社会デザイン学環 学環長 (就任予定) 尾崎 司 教授

産官学連携で実践から学ぶ

現在、企業や自治体との実践実習や連携プロジェクトの相談・打ち合わせをおこない、その共創の実現にワクワクしています。企業や自治体と連携してきた、これまでの経験を活かし、そのノウハウを全て学生たちに伝えていきたいと思っています。社会デザイン学環の1期生と共に、東京家政大学の未来を切り拓いてまいります。



リジェネラティブな暮らしをつくるとは

- ・まずは自然に動かして(行動して)、その反応から仕組みを学ぶ
- ・「聞こえ合わせ」「価値合わせ」で問題(変化)にとり組んでみる
- ・「聞こえ合わせ」→クリエイティブな発想を育むこと
- ・「消費する人」から「つくり出す人」へ
- ・つくり出せる自分への確信と自信
- ・つくり出せる自分は社会をつくり出せる

社会デザインする力

上映会「食べることは生きること」& オープニング・シンポジウム

食と循環型社会をテーマに 企業と共に議論

社会デザイン学環オープニング記念として、学園祭で上映会及びシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、連携する企業や非常勤講師予定の方と本学教員が「リジェネラティブな暮らし」について語り合いました。無印良品の農家や地域とのつながり、パーマカルチャー、ヒューリップの地域連携プロジェクトなどの話を通じて、食と循環型社会について考えました。

体験ワークショップやシンポジウムの取り組みには、オープンキャンパスや説明会で募集した高校生ボランティアが20名参加してくれました。来年度からは、1年生と共に、こうした活動を学生主体で展開していきたいと考えています。